

3 発表

最後にグループで話した内容について、発表しました。他のグループの話を聞いて、自分たちのグループでもやってみたい取り組みや各グループの思いを全体で共有しました。



<将来像>

住み続けられるまち

<取り組み・プロジェクト>

- ・高校で様々なものをつくり、文化祭で販売をしているが、広く知られておらず、もったいない。
- ・特産品をつくるためにも高校生と企業が連携・コラボするとよい。



<将来像>

大学生・高校生が庄原市の中で集まれるように

<取り組み・プロジェクト>

- ・空き家を学生寮やホテル、シェアハウスとして活用する。
- ・学生寮で庄原市内の農家がつくった米や野菜を使いおいしいごはんを提供してもらう。
- ・高校の特色を SNS で発信する。



<将来像>

学生が楽しめる場所がある

<取り組み・プロジェクト>

- ・各校ごとの特色を生かした合同学園祭などを開催し、1つの目標に向けて活動することの楽しさを学生に体験してもらう。
- ・学生が今集まっている場所を、満足できる空間にする。

<将来像>

自然とともに無理なく楽しげに生きるまちへ

<取り組み・プロジェクト>

- ・庄原暮らし大使を任命し、情報発信をする。
- ・SNS で投稿すると割引がされるシステムを構築する。
- ・暮らし体験をしてもらい、定住人口の増加につなげる。



<将来像>

誰でも自分の行きたい場所へ行ける交通手段

<取り組み・プロジェクト>

- ・定期の活用や予約制の公共交通の導入し利用促進をすべき。
- ・観光地としての魅力を情報発信する。
- ・バスで学生同士の交流ができるようにする。



<将来像>

事業後継者の全国募集・職種を増やす

<取り組み・プロジェクト>

- ・後継者を募集するため、後継者がいなくて困っている人を把握する。
- ・若い人に、庄原市でできる仕事のアピールや職業体験をする。
- ・起業したい人に来てもらい、支援する。



<将来像>

市民が自ら考え行動でき、子どもを中心に安心して暮らせるまち

<取り組み・プロジェクト>

- ・ワークショップを定期的開催し、市民の意識の醸成や色々な意見を聞けるようにする。
- ・子どもを安心して遊ばせる空間を商業施設の中に設ける。
- ・学生が誰でも参加できるサークルをつくる。



第3回 市民ワークショップ ニュース

令和7年6月

No.3

庄原市 企画振興部 企画課

TEL:0824-73-1128

FAX:0824-72-3322



第3期庄原市長期総合計画の策定に向け、 第3回 市民ワークショップを開催しました！

令和8年度より施行される、第3期庄原市長期総合計画の策定に向け、第3回市民ワークショップを開催しました。長期総合計画は、今後 10 年間の庄原市の将来像を描く計画であるとともに、多様な世代・立場でまちの目指す姿を共有し協力していく必要であるため、市民の皆様に参加いただき、「将来の庄原市の姿」について、全3回のワークショップを通じて考えていただきました。

最終回となる第3回市民ワークショップは、6月7日(土)に開催しました。市民・学生・市役所職員の計29名が参加し、「協働のまちづくりに向けた取り組みを考えよう!」をテーマに様々な思いや考えを対話いただき、将来像を実現するために必要な取り組みを整理しました。

市民ワークショップのスケジュール

第1回	将来のまちの姿を考えよう! 今あるまちの魅力/まちの課題/ 10年後に庄原市が目指すべき姿
第2回	理想の庄原市を実現するための取り組みを考えよう! 将来のまちの姿の実現に向けて、取り組むべきこと/ 取り組みテーマ別にプロジェクトを検討
第3回	協働のまちづくりに向けた取り組みを考えよう! 地域でできることや市民と行政が協働で実施する プロジェクトを検討・整理

《当日のプログラム》

- ① あいさつ
- ② 前回の振り返り
- ③ ワークショップ(ワーク1)
「庄原市未来協働プロジェクトをつくろう!」
- ④ 他のプロジェクトを聞いてまわろう!
- ⑤ ワークショップ(ワーク2)
「他のプロジェクトと連携できることを考えよう!」
- ⑥ 発表
- ⑦ 閉会

「将来の庄原市の姿」を実現するために実施すべき取り組み・プロジェクトについて、グループで対話しました！！

1 当日のワークショップの流れ

当日は、第2回市民ワークショップで出たテーマの中から話したいテーマごとに分かれ、将来像を実現するために実施すべきことを考えました。他のプロジェクトを聞き、取組内容に反映できること、連携できることも整理し、発表いただきました。



開会



ワーク1



共有



ワーク2



発表

2 「将来の庄原市の姿」を実現するための取り組み・プロジェクトの検討

ワークでは考えたいテーマに分かれ将来像を実現するための取り組み・プロジェクトを「行政」「民間」「市民」の視点でそれぞれ考えました。また、実施するにあたり、不足することや課題も整理しました。

“取組内容”では、「民間事業者との連携」「職業体験」「地元野菜の活用」「学生同士の交流」などが挙げられ、“不足すること・課題”では、「実施のための資金」「人材」「環境の整備」「意識醸成」などが挙げられました。



凡例
行政
民間
市民

テーマ	将来像	取組内容			不足すること・課題
		1～2年	3～5年	5～10年	
人口・移住定住	住み続けられるまち	地元企業専用の求人サイトをつくる 高校でコラボする（特産品など） 廃棄野菜を安く県大生などに売る	空き家バンク以外の空き家の管理 イベントを増やす（ライブなど） 地域の野菜で寮のごはんをおいしく	子どもを安全に預けられる場所 特産品を増やす	・資金 ・ボランティアに積極的に参加してくれる人 ・イベントの際の渋滞
交通・インフラ	誰でも自分の行きたい場所へ行ける交通手段	バスやタクシーを利用しやすい制度を作る 行政・民間事業で協力した交通手段の確立 たまには公共交通を利用する	JR 芸備線を残して人を呼び込む JR を使ったツアーの開催 小型車両にしてニーズに答えられるようにする	他校の学生とも話せるようなバスの運営	・外部から人が来る機会があまりない ・若者が住みやすい環境を整備する ・運営に必要な費用
娯楽・にぎわい	大学生・高校生が庄原市の中で集まれるように	古民家再生会社をつくる ↓ 規格外野菜（農家・学生寮へ） イベント・ライブをする（学生バンド等）	ホテル・民泊 寮のごはんに活用	24時間使える古民家 カフェにする	・県内の古民家をリフォームしたことがある人 ・空き家を回収するためのお金リフォーム代 ・ライブするときの音響や照明などの初期費用
	学生が楽しめる場所がある	学校交流イベントの実施 家での地域行事参加の声掛け 学生と自治会で町内行事を一緒に行う	場所づくり 総合クラブの設立	合同学園祭 学校交流イベントへの出店	
仕事・産業	自然とともに無理なく楽しげに生きるまちへ	ええねレポーターに市民レポートを載せる 農業休暇の復活 庄原暮らし大使がSNS発信する	365日の自然の日常冊子づくり 農業、林業をすると優良企業認定 林業の事業者、学生と一緒に手入れ体験	自治会の統廃合	・草刈り補助金の財源 ・資金
	事業後継者の全国募集・職種を増やす	事業を継いでほしい人の周知 地元どんな仕事があるかを知ってもらう 思い出を作る	職場体験 → したい仕事の決定 自治体の枠を超えて業種でマッチング 市民まるごと職場体験イベント	就職・起業 大人数が働ける場所を誘致	
生活環境	市民が自ら考え行動でき、子どもを中心に安心して暮らせるまち	目安箱の設置 ↑ ワークショップの定期開催 ↓ 活動に参加する意識づくり	農協と“何か”を併設させる 振興区単位で集まり、市民が課題等を考える どの学校の生徒でも参加できるサークルを作る		・活動するための資金や補助金 ・人材